

第4章

都市づくりの 実現に向けて

本市の将来都市像である、「まち・ひと・自然がつながり、持続的に発展する都市」を実現するためには、多様な主体が連携しながら、更なるまちの魅力の向上を図る都市づくりを進めていくことが必要となります。

1 住民、事業者、行政などによる連携の推進

今後、より一層多様化・複雑化していく都市づくりの課題を効果的に解決していくためには、住民、事業者、行政がそれぞれの役割を認識し、連携していくことが必要です。

住民は、互いに支えあう関係を築きながらまちづくりに参画することが求められています。

事業者は、社会経済活動の中で、より活力のある魅力的なまちをめざしていくなどの社会貢献を行うことが求められています。

行政においては、関連する機関が一層の連携を図り、効果的に公共サービスを提供し、住民、事業者それぞれとの連携を図り、また、各主体が都市づくりに参画できる環境を整え、支援することが求められており、こうした連携を推進し、より良い都市の実現に取り組みます。

2 計画の評価

本市の将来都市像を実現していくためには、一定の期間が必要になることから、継続的な取り組みが必要となる一方、今後の社会情勢の変化にも柔軟に対応していく必要があります。

そのため、それらの変化に対応していくためにも、計画を実施し、その結果を検証、評価し、次の計画へ適切に反映していく PDCA サイクル^{※1}の考え方が必要です。

今後、都市計画事業等の進捗や地域を取り巻く環境の変化、社会情勢の変化を踏まえ、都市計画マスタープランの検証を行い、必要に応じて見直しを行います。

※1：PDCA サイクル

業務プロセスの管理手法の一つで、計画 (plan) →実行 (do) →評価 (check) →改善 (act) という4段階の活動を繰り返し行なうことで、継続的にプロセスを改善していく手法のことです。